

# 山形県米沢市方言・山形市方言における条件表現の研究

竹田 晃子

## 1. 目的

日本語の諸方言における条件表現には複数の形式が用いられ、共通語とは異なる使い分けがあることが知られているが、その詳細は不明である。条件表現には通時的な観点からの研究蓄積があり、方言の用法記述や分布との関連からの検討も部分的には行われてきたが、多くは課題とされてきた。国語研究所（1989-2006）『方言文法全国地図』によると、山形県内陸の方言においては共通語でも用いられるタラ、バ、ト、テワなどのほかにトキ、タツケ、コンタラなど共通語では用いられない形式が分布する点で注目される。

本論は、これらの形式が使い分けられる伝統的な山形県米沢市方言・山形市方言について、生え抜き高年層を対象にした臨地面接調査から条件表現の全体像を明らかにしつつ、これら二つの方言における用法を対照することを目的とする。

以下、調査概要と使用される形式を概観した後、それぞれの形式の用法について標準語と対照しつつ、従属節用法、非従属節用法に分けて具体的な例文を確認し、最後に、特徴的な形式コンタラ類の用法について述べる。

## 2. 調査の概要

### 2.1 調査地点の言語的特徴

山形市は形県内陸の村山地方の中心地に位置し、山形県の県庁所在地である。同地方に属する天童市（北）、上山市（南）、山辺町（西）に囲まれ、東は奥羽山脈を経て宮城県仙台市に接している。東北方言的な特徴として、カ行・タ行の濁音、無型アクセント、格助詞の不使用、アスペクト形式（継続・過去）のテダ（ツダ）などがある。一方で、自発の助動詞ル、可能の動詞＋イ、当為の動詞＋ナネなどが用いられるほか、特にテンス形式において過去のタツタ／テアツタが用いられないなど、東北方言において一般的ではない現象

も多い。

一方、米沢市は山形県内陸の南東に位置し、置賜地方の中心地である。過去形式のタツタが用いられ、敬語表現形式が豊富に存在するなど、村山地方とは大きく異なる。助動詞・終助詞については特に福島県内陸北部方言、ひいては東北地方の他の方言との連続性がみられる。

### 2.2 話者

話者は当該方言生え抜きのお二方である。山形市方言の話者Yは、山形県山形市八日町出身、1942年生まれ（調査時68歳）の男性である。両親・祖父母も同地の出身で、本人も山形市方言とある程度の共通語を使い分けるが、典型的な山形市方言の無型アクセント話者であり、家庭・職場の両方で山形市方言を使用してきた。

米沢市方言の話者Hは、山形県米沢市福田町出身、1923年生まれ（調査時86歳）の女性である。両親・祖父母も同地の出身である。米沢市方言の中でも武家筋の女性のことばを使用する<sup>1)</sup>。

双方の話者の生年には約20年の差があるが、本稿ではひとまず両方言の高年層として扱う。

### 2.3 調査概要と表記の方法

調査日は、山形市方言は2010年3月20日、米沢市方言は2010年3月20-21日と8月3-4日、調査場所は話者Yの自宅で、調査者は竹田である。

調査は、話者に共通語例文を確認してもらい、翻訳した当該方言を発話してもらうという方法による。本稿では、話者の自発的な発話例文を中心に記述するが、調査者が提案した例文を発話しながら使用の有無を確認してもらった例文も含む。

調査例文は、主に、方言文法研究会編（2009）『『全国方言文法辞典』のための条件表現・逆接表現調査ガイドブック』における「条件表現 共通調査項目」による。これは方言文法の調査を目的に作成された調査票で、日本語の標準語における条件表現を文法的に概

説しつつ調査の観点を説明した前田直子（2009）と、方言における条件表現の様相を概説した三井はるみ（2009）に基づく。本論はこれらの用語に沿って記述する。

なお、本論では、方言例文については原則として次のように表記する。

- ・条件表現形式部分の回答に大きな違いがない例文は基本的に米沢市方言をあげ、異なる場合は山形市方言を語形のみ添える。その場合、山形市方言の語形の冒頭に〈山〉を付す。
- ・方言文はカタカナで表記し、該当部分に下線を付す。
- ・複数の例文が発話された場合、できるだけ最も典型的なものを選んで示す。複数の条件表現形式が使用される場合は／で区切り、{ }に入れて列挙した。
- ・条件表現形式の末尾にラ、バ等がつく場合があるときは語形の末尾に（ ）に入れて付す。
- ・使用しないことを確認した形式には×を付した。
- ・文末の「？」は上昇音調を示す。疑問文でも上昇音調を取らないものには付さない。
- ・ガ行・ダ行の子音は、語頭音以外では鼻音で実現される場合があるが、特記しない。
- ・長音・促音・撥音などの特殊拍が短い場合があるが、特記しない。
- ・対応する標準語訳を漢字仮名交じり文で表記し、該当部分に下線を付して方言文の後に（ ）に入れて示す。
- ・例文の文法的観点を、標準語訳の後に補足的に〔 〕で付す。

### 3. 使用される形式

具体的な用法を述べる前に、まずは用いられる形式について形式的な特徴を中心に、調査結果に基づいて概観する。

- ① タラ：両方言において基本的な形式である。多くは直前の有声音に続く無声子音/t/が有声化してダラになる。米沢市方言では、促音の後でチャラになることがある。
- ② ト：両方言において基本的な形式で、タラと同様に多用される。多くは直前の有声音に続く無声子音/t/が有声化してドになる。
- ③ バ／タラバ：米沢市方言ではバ／タラバの形が用いられるが、山形市方言ではタラバは用いられない。
- ④ テワ類：両方言において用いられ、米沢市方言で

はジャの形になることがある。

- ⑤ トキ：両方言において用いられ、多くは直前の有声音に続いた場合に語頭の無声子音/t/が有声化してドギになる。
- ⑥ タツケ：米沢市方言ではタツケの形が用いられ、タケ／タツケバの形や、促音に続くときチャツケの形が用いられることがある。山形市方言では条件表現にタツケは用いられない。
- ⑦ コンタラ類：両方言で用いられ、形式的なバリエーションが多いが、現時点では意味の違いは確認できない。両方言ともに、多くは直前の有声音に続く無声子音/k/が有声化してゴンタラ／ゴンパ／ゴンジャのようになる場合が多い。各方言の形式的特徴は以下の通りである。

#### ○米沢市方言

コンタラ／コッタラ：多用する。男性語的。

コンタラバ／コッタラバ：省略しない長い形式。あまり使われず、誘導によって確認できる。

コンジャ／コンジャラ：多用する。女性語的。

コンジャラバ：省略しない長い形式で、あまり使われず、誘導によって確認できる。

（×コンタバ、×コンタ、×コンパ）

#### ○山形市方言

コンタラ／コッタラ：多用する。

コンタラバ／コッタラバ：省略しない長い形式。ほとんど使われず、誘導によって確認できる。

コンパ：中年層以下の若い年層が頻繁に使う。高年層も使う。

（×コンタバ、×コンタ、×コンジャ、×コンジャラ、×コンジャラバ）

## 4. 従属節用法

### 4.1 仮説的用法（予測的用法）

#### 4.1.1 基本用法

仮説的用法は、前件の未実現事態が実現した場合に生起する結果を後件で述べるもので、もっとも典型的な条件文とされる（前田 2009）。米沢市方言ではバ／タラ／タラバが回答されたが、バは動詞とその否定形以外では回答されない。山形市方言では動詞にはバ、動詞の否定形と形容詞・形容動詞・名詞述語にはタラが回答された。両方言ともに、タラは、特に接続・用法の制限がな少ない基本的な形式であるとみられるが、山形市方言では、動詞述語と状態述語の条件表現

形式が過去形式の有無において相補的である点で興味深い。

- (1) アシタ アメ フ {レバ/ツタラ (バ)},  
フネ デネベ。(あした雨が降れば、船は出ないだ  
ろう。)〈山:フレバ〉〔動詞述語, 推量〕
- (2) アシタ アメ フネ {グレバ/ガツタラ  
(バ)}, フネ デッコダ。(あした雨が降らなけ  
れば、船は出るだろう。)〈山:フネガツタラ〉  
〔動詞否定述語, 推量〕
- (3) アシタ ナミ タガガツタラ (バ), フネア  
デネゴデ。(あした波が高ければ、船は出ないだ  
ろう。)〈山:タガガツタラ〉〔形容詞述語, 推量〕
- (4) アシタ ナミ シズガダツタラ (バ) フ  
ネア デッコデ。(あした波が静か {であれば/な  
ら}, 船は出るだろう。)〈山:シズガダツタラ〉  
〔形容動詞述語, 推量〕
- (5) アシタ アメダツタラ (バ), フネア デネ  
ベナ。(あした雨 {であれば/なら}, 船は出ないだ  
ろう。)〈山:アメダツタラ〉〔名詞述語, 推量〕

#### 4.1.2 前件が事実である場合

仮説的条件のうち、前件が実現していて後件が未実現の場合である。米沢市方言ではタラ/タラバ、山形市方言ではタラのみが用いられる。

- (6) コガイニ フツタラ (バ), ミズブソグニナ  
ンテ ナンネベナ。(これだけ降れば、水不足には  
ならないだろう。)〈山:フツタラ〉〔動詞述語:  
前件が事実, 推量〕

#### 4.1.3 「～さえ～ば」の用法(最低限必要な条件)

標準語では「～さえ～すれば」の形で前件の条件が最低限必要な条件で他の条件が不要であることを表す。この場合、両方言でタラが用いられる。

- (7) アメサエ ヤンダラ, フネア デンベナ。  
(雨さえ止めば、船は出るだろう。)〔動詞述語:  
最低条件, 推量〕

#### 4.1.4 モダリティ制限

標準語の「ば」「と」には後件にモダリティ制限があり、(8)のように後件が断定の場合や、前件が状態性述語の場合は(11)のように「ば」が使えるが、命令・依頼・勧誘などの働きかけ表現や希望・意志では「たら」が用いられるとされる(前田2009)。両方言とも、(8)にバが回答されたほかは、全般に米沢市方言ではタラ/タラバ、山形市方言ではタラが用

いられ、(11)では両方言でトキも併用される。

- (8) ドリヨグ {スレバ/シタラ (バ)}, デギ  
ルヨニ ナンベ。(努力すれば、できるようになる。)〈山:シタラ〉〔動詞述語, 断定〕
- (9) ゴハン クツタラ (バ), ハー ミガゲヨ  
(ご飯を食べたら、歯を磨け。)〈山:クタラ〉  
〔動詞述語, 命令〕
- (10) エギサ ツイダラ (バ), デンワ シロナ  
(駅に着いたら、電話をしてくれ。〈山:ツイダ  
ラ〉〔動作性動詞述語, 依頼〕
- (11) ミジ ワガンネ {ガツタラ (バ)/ド  
ギ}, デンワ シテケロ。(道がわからな {ければ  
/かったら}, 電話をしてくれ。〈山:ワガン {ナ  
ガツタラ/ネドギ}〉〔状態性動詞述語, 依頼〕
- (12) オドナニ ナツタラ (バ), パイロットニ  
ナリダイ。(大人になったら、パイロットになり  
たい。)〈山:ナツタラ〉〔動詞述語, 希望〕
- (13) [独り言で] コイズ オワツタラ (バ),  
チョット ヤスムベ。(これが終わったら、ちよ  
と休憩しよう。)〈山:オワツタラ〉〔動詞述語,  
意志〕
- (14) シゴド オワツタラ (バ), ノミニ イ  
グベ。(仕事が終わったら、飲みに行こうよ。)  
〈山:オワツタラ〉〔動詞述語, 勧誘〕

#### 4.1.5 後件の反期待性

標準語では、後件の事態が望ましくない場合、「と」「たら」が用いられる。米沢市方言ではト/タラ/タラバ/コンタラ類、山形市方言ではト/タラ/コンタラ類が用いられる。

- (15) ソガナ クライドゴデ ホン ヨ {ムド  
ンダラ (バ)/ムゴンダラ}, メ ワイグ ス  
ンヨ。(そんな暗いところで本を読 {んだら/む  
と}, 目を悪くするよ。)〈山:ヨ {ンダラ/ムゴ  
ンダラ}〉〔警告〕
- (16) オマエ イ {グド/ツタラ (バ)/グゴン  
ダラ}, ソノハナシ ダメニナル ホンネガ。(お  
前が行 {ったら/くと}, その話はだめになるの  
ではないか。)〈山:イグ {ド/ゴンダラ}〉〔懸  
念〕
- (17) オマエ イガネ {ド/ガツタラ (バ)/ゴ  
ンダラ}, ソノハナシ ダメニナル ホンネガ。  
(お前が行 {かなければ/かないと}, その話はだ  
めになるのではないか。)〈山:イガネ {ド/ゴン  
ダラ}〉〔懸念〕

#### 4.1.6 疑問語との共起

標準語では、「ば」は後件が実現するための条件を示すため疑問語を前件に含むが、「と」は前件が確定している事態に用いられるため疑問語は主節にだけ共起する(前田 2009)。米沢市方言では従属節ではト／バ／タラ(バ)が用いられるが、バは(18)以外に回答されなかった。山形市方言では主にト／タラが用いられ、バは用いられない。

(18) ドノ ボダン オ {スト／セバ／シタラ (バ)} , オズリ デンナガ? (どのボタンを押 {せば／したら} , おつりが出るのか?) <山:オ {スト／シタラ}> [従属節]

(19) ダレサ {キクト／キーダラ (バ)} , ワガンベナー。(だれに聞 {けば／いたら} , わかるかな。) <山: {キクト／キーダラ}> [従属節]

疑問語に直接つく場合は、米沢市方言はト、山形市方言はト／タラが用いられる。

(20) イツダド、コラレル? (いつなら、来られる?) <山:イズ {ダド／ダラ}> [疑問語に後接]

主節に疑問語がある場合は、米沢市方言ではト／タラが用いられる。

(21) コノ ボダン オ {スト／シタラ (バ)} , ドーナンナ? (このボタンを押 {したら／すと} , どうなるの?) <山:オスト> [主節]

なお、山形市方言ではトが用回答されたが、2回目以降の質問で違うボタンについて聞くときには、「コッチノ ボダン オシタラ、ドーナンノー?」のように、タラも用いられる。

### 4.2 認知的条件(標準語の「なら」の独自用法)

#### 4.2.1 認知的条件文

標準語の「なら」は、すでに成立して事実となった事態あるいは成立することが確実な事態を話し手の認識として述べる認知的条件文に用いられる点で「ば」「と」「たら」と異なるとされる(前田 2009)。両方言では、この場合、コンタラ類が用いられることが多い。米沢市方言はンタラ／ンタラバとコンタラ類、山形市方は主にコンタラ類と、動詞述語にはンタラ／状態述語には(ナ／ダ)タラが併用される。(24)では両方言ともコンタラ類のみが回答されたが、これは前件の事態を自分で確認した直後に発話されるためと考えられる。

(22) キョーノ ノミカイサ ヤマモドサン ク {ルンダラ (バ)／ッコンダラ} , オレモ イグダナ。(今日の飲み会、山本さんが来るなら、私も行

こうかな。) <山:クル {ンダラ／ゴンタラ}> [動詞述語・予定]

(23) [隣の家に泥棒が入ったと聞いて] トナリサ ハイッタ {ンダラ (バ)／ゴンタラ} , オランドゴノ ウジモ キー ツケナクタンネナ。(隣に入ったなら、うちも気をつけないといけないな。)

<山:ハイッタ {ンダラ／ゴンタラ}> [動詞過去形述語・過去の事実]

(24) [値段を聞いて] ソガイニ タガイゴンダラ カワネ。(そんなに高いなら、買わない。)

<山:タガイゴンタラ> [形容詞述語]

(25) ソガイニ シズガ {ダラ／ナゴンダラ} , オレモ スンデミダイ。(そこがそんなに静かなら、おれも住んでみたい。) <山:シズガ {ダラ／ダゴンタラ}> [形容動詞述語]

(26) ソガイニ オモツシャイ ホン {ダラ／ダゴンダラ} , オレモ ヨミダイ。(そんなにおもしろい本なら、おれも読みたい。) <山:ホン {ダラ／ダゴンタラ}> [名詞述語]

#### 4.2.2 前件と後件の時間的前後関係

一般には条件のほうが帰結より先に生起するが、前件が先に生起する場合や同時に生起する場合、標準語では「なら／のなら」が用いられることが多い。両方言とも、このような場合にはトキ／タラ／コンタラ類が回答された。その他、山形市方言ではンタラ／ンダッタラも回答されたが、コンタラ類と同様、前件の事態を準体助詞／形式名詞相当の形式で受けて表す形式である。

(27) [自分が今読んでいる本を読みたそうにしている友人に] ヨム {ドギア／ゴンダラ} , カスヨ。(読む(の)なら、貸すよ。) <山:ヨム {ドギア／ンダラ／ンダッタラ／ゴンタラ}> [後件→前件、申し出]

(28) テガミオ カグ {ドギア／ゴンダラ} , ジキレーニ カイデケロ。(手紙を書く(の)なら、字をきれいに書いてくれ。) <山:カグ {ドギア／ンダラ／ンダッタラ／ゴンタラ}> [前件=後件、依頼]

(29) ユービンキョクサ イグ {ドギア／ゴンダラ} , キッテ カッテキテケロ。(郵便局に行く(の)なら、切手を買ってきてくれ。) <山:イグ {ンダラ／ンダッタラ／ゴンタラ}> [前件→後件、依頼]

### 4.3 反事実的条件

前件と後件が事実に反する場合の用法である。両方言ともにト／バ／タラ（バ）が用いられるが、山形市方言では（30）では動詞述語にはバが回答され、形容詞にはタラが回答された。

(30) イマツト ハヤグ {クット／クレバ／キタラ（バ）} , マニアッタナニ。(もっと早く来れば, 間に合ったのに。) 〈山: クレバ〉

(31) イマツト チューイ シテレバ, ケガ シネガッタナニ。(もっと注意していれば, けがはしなかっただろうに。) 〈山: シテレバ〉〔テイル形〕  
前件が事実の場合は, 両方言でコンタラ類も用いられる。

(32) コガイニ サム {ガッタラ（バ）／イゴンダラ} , コート キテクナダッタ。(こんなに寒いなら, コートを着て来るんだった。) 〈山: サム {ガッタラ／イゴンタラ} 〉〔前件が事実〕

### 4.4 一般条件

一般条件では, 不特定の主体において一般的・恒常的に起こる出来事が表され, 後件に過去形が用いられない。両方言でトが用いられるが, 他に米沢市方言では(33)にバ, (34)にタラ（バ）, 山形市方言は(33)にタラが用いられる。(33)はより一般的な事実を述べる文であるため, テンス的に分化しないと考えられる。

(33) コーリ トゲ {ット／レバ} , ミズニナル。(氷が溶け {れば／ると} , 水になる。) 〈山: トゲ {ット／ダラ} 〉〔自然〕

(34) ダレダッテ トシ トツ {ト／タラ (バ)} , グアイ ワイドゴ デテクル。(誰だって年を取 れば／ると , 具合の悪いところも出てくる。) 〈山: トツ〉〔人事〕

### 4.5 反復習慣

反復習慣は, 特定の主体の持つ習慣が反復的に生起することを表し, 後件に過去形が用いられる場合は過去における反復習慣を表す。この場合, 両方言ともトが用いられる。

(35) アソゴノ ウチサ イグド, イズンデモウマイモノ ゴチソーシテ クダンナダ。(あの人の家に行くと, いつもごちそうして下さるのだ。)〔現在〕

(36) ムガシア, ガッコウカラ カエツト, マイーニジ ウジノ テツダイ シタッタ。(昔は, 学校から帰ると, 毎日家の手伝いをしたものだ。〔過去〕

### 4.6 前置き

前置き表現として思考・発話を表す動詞に接続して用いられる場合, 標準語では「ば」「と」が使われるが, 両方言ではトが用いられる。

(37) イマ オモード, ワガイドギ ズイーブン ムジャシタナ。(今思えば, 若いころはずいぶんむちゃをしたなあ。)

### 4.7 事実的用法

事実的用法とは前件・後件とも一回実現した事実である場合だが, 前件と後件が動きか状態かによって異なる。後件が動きをあらわす場合, 米沢市方言はタラ(バ)／タツケ, 山形市方言はタラのみが用いられる<sup>2)</sup>。

(38) ソサ イツ {タラ（バ）／タツケ} , モーカイ オワツテダツケ。(そこへ行ったら, もう会は終わっていた。) 〈山: イツタラ〉〔発見〕

(39) キノー サンポ シテ {タラ（バ）／ダツケ} , キューニ アメ フツテキタ。(昨日, 散歩をしていたら, 急に雨が降ってきた。) 〈山: シツタラ〉〔発現〕

(40) イヌサ エサ クツ {チャラ／チャツケ} , ウレシガツテ クツタツケンジェ。(犬にえさをやったら, 喜んで食べたよ。〈山: ヤツタラ〉〔きっかけ〕

(41) [眠れないと思ったけれど] フドンサ ハイツ {タラ（バ）／タツケ} , スーグ ネムラツチャケ。(布団に入ったら, すぐ寝てしまった。) 〈山: ハイツタラ〉〔連続〕

前件の事態を受けた後件が状態を表す場合, 米沢市方言はタラ（バ）, 山形市方言はトを用いる。

(42) ヒヤシテ ノンダラ（バ）, ノマイナ。(冷やして飲むと, おいしいね。) 〈山: ノムド〉〔評価〕

前件が後件による評価の根拠としての状態を表す場合, 米沢方言でタラ（バ）／コンタラ類, 山形市方言でタラ／コンタラ類を用いる。米沢市方言ではコンタラ類にル形とタ形の二種類が回答されるが, 山形市方言では過去形式がついた形式が用いられる。

(43) イヤー, ソガイニ デギ {ダラ（バ）／ルゴンダラ／ダゴンダラ} , タイシタモンダナ。(いや, それだけでできれば, たいしたものだよ。) 〈山: デギ {ダラ／ダゴンタラ} 〉〔評価〕

事態の連続の反復を表す場合, 米沢市方言ではト／バ／タラ（バ）, 山形市方言ではタラが用いられる。この場合にはコンタラ類が用いられない。

(44) ハダゲサ イ {グド/ゲバ/ツタラ  
(バ)} , ハジニ ササレッシ, ヤマサ イ {グド  
/ゲバ/ツタラ (バ)} , ヘビニ クワレッシ, タ  
イヘンダツタ。(畑に行けば蜂に刺されるし, 山  
に行けばへびに咬まれるし, たいへんな目にあっ  
た。) <山: ハダゲサ イツタラ・ヤマサ イツタ  
ラ> [事態の連続の反復]

#### 4.8 並列・列挙用法

存在や属性が併存することを表す場合である。(45)  
のように前件と後件の事態が同時成立する場合, 米沢  
市方言では標準語と同様バが用いられるが, 山形市方  
言では並列の副助詞スが用いられる。

(45) ツグエノ ウエサワ リンゴモ アレバ,  
カギモ アル。(机の上には, リンゴもあれば, 柿  
もある。) <山: アッス> [同時成立]

名詞述語の場合は(46)(47)のように標準語では「なら」  
が用いられるが, 両方言では主にタラが用いられる。

(46) エドガ セージノ チューシンダラ, オー  
サカワ ショーギョーノ チューシンダ。(江戸が  
政治の中心なら, 大坂は商業の中心だ。) [対比]

(47) オヤモ オヤダラ, オボゴモ オボゴダ。  
(親も親なら子も子だ。) [対比]

#### 4.9 テワ類調査項目

##### 4.9.1 仮定条件

仮定された前件に対して後件に望ましくない事態が  
くる場合, 標準語では前件に「ては」が用いられる(前  
田 2009)。米沢市方言ではタラとコンタラ類が用い  
られるが, 山形市方言では主にテワと, タラが用いら  
れる。

(48) ソガナ クライドゴデ ホン ヨ {ンダラ  
/ムゴンダラ} , メ ワイグ スンゾ。(そんな  
暗いところで本を読んでは, 目を悪くするよ。)  
<山: ヨン {ダラ/デワ} > [警告]

(49) オマエ イグ {ド/ゴンダラ} , ソノ ハ  
ナシ ダメニ ナンジサ。(お前が行っては, その  
話はだめになりそうだ。) <山: イッ {ツタラ/タ  
ンデワ} > [懸念]

(50) オマエ イガネ {ド/ゴンダラ} , ソノ  
ハナシ ダメニ ナンジサ。(お前が行かなくて  
は, その話はだめになりそうだ。) <山: イガナ  
{ガツタラ/クテワ} > [動詞否定述語, 懸念]

(51) コガイニ アメ フツ {テット/ゴンダ  
ラ} , シゴドニ ナンネ。(こんなに雨が降って

は, 仕事にならない。) <山: フツテワ> [動詞述  
語, 懸念]

(52) コガイニ チチャイ コドモ {ダラ/ダゴ  
ンダラ} , コノ ニモズ モダンニ。(こんなに小  
さな子どもでは, この荷物は持てない。) <山: イ  
ダクテワ> [名詞述語]

##### 4.9.2 反復

前件が後件を引き起こすという事態が反復するこ  
とを表す場合, 両方言ともテワが用いられる。

(53) ナンベンモ フリガエテワ, テー フッ  
タツケ。(何度も振り返っては手を振った。)

(54) ンボゴノ ドギア, ワイゴド シテワ, セ  
ンサーカラ オゴラッチ。(子どもの頃は, いたず  
らをしては, 先生に怒られた。)

(55) カイデワ ブツツアギ, ブツツアイデワ  
カギ, ヤット テガミ カイダツタ。(書いては破  
り, 破っては書き, やっと手紙を書き上げた。)

## 5. 非従属節用法

### 5.1 助動詞的用法

助動詞的用法とは, 条件表現形式に評価を表す形式  
がついた形で当為的判断や評価のモダリティを表す助  
動詞的な複合形式になる場合である。反事実・必要十  
分・困惑の場合には, 両方言で主にトが用いられる。

(56) イマツト ハヤグ オギツトイガツタ。(もっ  
と早く起きればよかった。) [反事実的・後悔]

(57) アガナ ドゴサ イガネドイガツタ。(あ  
んなところに行かなければよかった。) [反事実  
的・後悔・動詞否定述語]

(58) イマツト ヤスイドイーノニ。(もっと安け  
ればいいのに。) [反事実的・不満・形容詞述語]

(59) ヤセダイドギヤ, クワネドイーゴデッ  
シャ。(やせたいなら, 食べなければいいじゃな  
いか。) [必要十分]

(60) ナンジョスツトイーガ ワガンネ。(どう  
すればいいかわからない。) [困惑]

一方, 義務・禁止には, 条件表現形式を分出するこ  
とのできない複合形式的な形式が用いられる。

(61) アシタ ヤクバサ イガナンネ。(私はあ  
した役場に行かなければならない。) [義務]

(62) コゴデ タバゴ スツテワイ。(ここで煙  
草を吸ってはダメだ。) [禁止]

## 5.2 終助詞的用法

条件表現形式で文が終わる用法について、(63) では両方言ともタラが用いられるが、(64) では山形市方言では条件表現形式で言い切る文は回答されなかった。

(63) [お菓子をすすめて] コッチノモ クツテミダラ。(こっちのも食べたら。) [勧め]

(64) シタイゴンジャ カツテニ シタラ。(やりたいなら勝手にやれば。) <山: シテミットイッダナ> [突き放し]

事態の再確認を求める用法には、叙述では条件表現形式は用いられず、終助詞のシャ(米沢市方言)やベシタ(山形市方言)が用いられる。

(65) [リモコンの置き場所をなかなか覚えない相手に] ナンベン イッタラ ワガンナ。コゴサ アツテッシャ。(何度言ったらわかるの。ここにあるってば。) <山: アルベシタ> [再確認の要求・叙述]

禁止は、米沢市方言ではタラが用いられるが、山形市方言では条件表現形式が用いられない。

(66) [一度止めたのにそれでも行こうとする子どもに] ソッチャ イグナツタラ。(そっちへは行くなたら。) <山: イグナズ> [再確認の要求・禁止]

## 5.3 接続詞的用法

条件表現形式は接続詞をつくる場合があり、標準語には「それでは」「そうしたら」などがある。両方言とも、従属節的な用法と慣用的な表現にトが用いられる。米沢市方言では転換や推論ではテワ類が用いられる。山形市方言は転換ではテワ、推論にはンダラ/ンダドストが回答された。

(67) コノミジ ムジンネデ マッスグ イゲ。ソースット, ユービンキョグ アッカラ。(この道を曲がらないでまっすぐに行け。そうすれば、郵便局があるから。) <山: ンダド/ソースット> [従属節的]

(68) モシカスト, アノヒト, コネガモ シンネ。(もしかしたら、あいつは来ないかもしれない。) [慣用的]

(69) [別れのあいさつで] ホンジャ, イマーニ。では, さようなら。) <山: ホンデワ/ンダラ> [転換]

(70) ヤグソグ アシタダツタンダナ。ンジャ, オレ マジガツテダツタ。キョーダド オモツテダツタ。(約束は明日だった? じゃあ, 私は間違っていた。今日だと思っていた。) <山: ン {ダ

ラ/ダドスト} > [推論]

事実的な用法では、米沢市方言はタラとタツケ/タツケバ、山形市方言はタラが用いられる。

(71) ロクジニ ツイダ。 シ {タラ/タケ (バ)} , モー カイ オワツテタンダツケー。

(6時に着いた。そうしたら、もう会は終わっていた。) <山: ホシタラ> [事実的]

## 6. 各形式の用法

両方言の条件表現形式の用法を標準語に比べつつまとめると次のようになる。

- (1) タラ: 両方言で広く用いられる。用法が広く、標準語ではバが用いられる用法のほぼ全体をカバーする。また、形式名詞/準体助詞相当の形式がついたンダラの形はが、標準語の「なら」相当の形式として用いられることがある。
- (2) ト: 両方言で多用される。特にテワ類の仮定条件・非従属節における助動詞的用法・接続詞的用法において用法が広い。
- (3) バ: 従属節用法の仮説的用法や反事実的条件など一部の例文でバが用いられるが、あまり用いられない。
- (4) テワ: 山形市方言では仮定条件と反復に用いられる。米沢市方言では反復と接続詞的用法に用いられる。
- (5) トキ: 仮説的用法のうち前件と後件の時間的前後関係を表す場合を中心に用いられる。
- (6) タツケ: 米沢市方言では過去の事態について述べる事実的用法に用いられる。山形市方言では用いられない。
- (7) コンタラ類: 両方言において、「こと」で受けた事態の成立を仮説的に示し、「～ということが(実際に)あるのなら」というような意味を表す。したがって、従属節のテンスを分化させずに事態を話し手の認識として前件で述べる場合に用いられ、後件に未実現の出来事がくる例文が典型的である。仮定された前件に対して後件に望ましくない事態が述べられる仮定条件において、米沢市方言ではコンタラ類が用いられるが、山形市方言では用いられず、テワが用いられる。この点で、米沢市方言のコンタラ類は山形市方言よりやや用法が広い。

## 7. まとめ

以上、伝統的な米沢市方言と山形市方言における条件表現について、用いられる形式の特徴と用法を具体的な例文を示しつつ述べた。その結果、次のようなことが明らかになった。

米沢市方言と山形市方言は、6でみたように、使用される形式と用法の両面で類似するが、テワ、タツケ、コンタラ類において違いがみられる。特に、タツケは、山形市方言以外の東北地方のほとんどの地域（米沢市を含む）で用いられる条件表現形式である。山形市方言はテンス形式として文末のケを用いる点で他の東北方言と異なっており、条件表現でのタツケの不使用と対応しており、他の東北方言と異なる独自の文法体系を有すると考えられる。

さらに、両方言はナラが用いられない点で標準語と異なるが、米沢市方言と山形市方言においてはコンタラ類とンダラの形が標準語の「なら」の用法をカバーしていると考えられる。どちらもタラを含む過去の形である点で興味深い。なお、「なら」相当の表現は、方言においてはナラ以外の形式が用いられるが、それらの形式の用法の広狭には違いがあることが三井(2009)によって指摘されている。

山形市方言ではコンパが中年層・若年層に用いられるが、中年層・若年層はこれをコンタラ類に由来する形であると認識していない場合がある。用法においても高齢層と異なっている。形式の変化と用法の変化について、今後の課題としたい。

### 註

- 1) 国語研究所(1966-1974)『日本言語地図』・同(1989-2006)『方言文法全国地図』の米沢市の地点では男性のことばが報告されており、話者Hにそれらの語形を示して尋ねたところ、特に敬語に関わる項目で「それらは商売をする男性のことばで武家筋の人は使わない」と回答した。
- 2) 山形市方言は、条件表現にタツケを使用しない。ただし、文末ではケ／タツケが用いられる場合がある。

八

### 参考文献

- 国立国語研究所編(1966-1974)『日本言語地図』全6巻, 大蔵省印刷局  
 国立国語研究所編(1989-2006)『方言文法全国地図』全6巻, 財務省印刷局

- 櫻井真美(2002)「山形市方言の条件表現形式「ドギ」」『言語科学論集』6, 東北大学文学部日本語学科  
 櫻井真美(2003)「山形市方言順接条件表現形式「ド」の用法」『言語科学論集』7, 東北大学文学部日本語学科  
 竹田晃子(2004)「山形市方言におけるテンス・アスペクトと文末形式ケ」『国語学研究』42, 東北大学文学部国語学研究室  
 方言文法研究会編(2009)『『全国方言文法辞典』のための条件表現・逆接表現調査ガイドブック』(科学研究費補助金 基盤研究(B) 課題番号21320086・研究代表者:日高水穂,「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」研究成果報告書)  
 前田直子(2009)「条件表現 共通調査項目解説」方言文法研究会編(2009)収載  
 三井はるみ(2009)-1「条件表現の地理的変異—方言文法の体系と多様性をめぐって—」『日本語科学』25, pp.143-164, 国書刊行会  
 三井はるみ(2009)-2「条件表現の全国分布概観」方言文法研究会編(2009)収載